

検討会の設置（共同検討の開始）

- 「今後の資源循環施策に関する区市町村と都との共同検討会」設置
(平成 27 年 3 月 26 日)

【設置の目的】

東京 2020 大会を契機に、区市町村と都がこれまで以上に連携して推進を図るべき資源循環施策に係る具体的な方策について、区市町村と都が共同で検討し実施する。

<当面の検討事項>

東京 2020 大会を契機に、区市町村と都がこれまで以上に連携して推進を図るべき資源循環施策

- ① 効果的な資源有効利用や廃棄物発生抑制の更なる促進について
- ② 業務用ビル等から排出される事業系廃棄物（事業系一般廃棄物及び産業廃棄物）のリサイクルの推進について
- ③ 区部における埋立処分量の更なる削減について
- ④ その他必要な事項

<検討の方法等>

- 23 区、多摩地域、島しょ地域及び都の代表からなる検討会を設置し、情報共有を図りつつ具体的な取組案を作成

※「区部における埋立処分量の更なる削減」については、23 区と東京都で実施

<検討スケジュール>

- 平成 27 年度中に第 1 回目の中間とりまとめを行う。
- 合意が得られた事項については、順次、外部の関係者と協議しながら取組を進めていく。

本検討会で共同で検討を行う事項の選定

- 都内区市町村及び東京都等で相互に提案を出し合いながら、本検討会において共同で検討を行う事項を選定（「5 つの検討事項 + 1（区部における埋立処分量削減）」）

■ 東京 2020 大会を契機に、区市町村と都がこれまで以上に連携して推進を図るべき資源循環施策

- 1 東京 2020 大会を見据えた、
(1) リユースカップなどイベントでの持続可能な資源利用のための仕組みづくり
(2) 街の美化対策及び公共空間におけるごみ箱の統一ラベルや分別ルールづくり

- ✓ 都内での大規模イベント等における「持続可能な資源利用」にむけた仕組みづくりを進め、都及び区市町村が主催・後援等を行うイベントで活用していくなどして「東京 2020 大会開催に伴うレガシー」のひとつとしていくことを目指す。
- ✓ 東京を訪れる観光客にもわかりやすい、公共空間における東京の資源・廃棄物管理のルール・マナーを再構築し、「清潔できれいな都市・東京」を世界に発信していく。

- 2 資源を無駄にしない（資源を大切に利用していく）取組

- ✓ 資源利用に伴う世界的なリスクや東京の経済活動は他地域から供給される資源やモノに支えられていることを踏まえ、廃棄物として排出されるものうち、更なるリサイクルが可能な資源を洗い出し、資源として大切に利用していく取組を推進する。

- (1) 事業系廃棄物のリサイクル（3R）ルールづくり

- ✓ オフィスビルや商業店舗が集積している都市東京において、業務系ビルから排出される廃棄物の更なるリサイクルを推進していく。

- (2) 更なるリサイクルが可能な資源を廃棄物にしない取組

- ✓ 一般廃棄物として排出されるものうち、更なるリサイクルが可能な資源を洗い出し、廃棄物にしない取組を推進していく。

- 3 食べ物を無駄にしない・処理時の環境負荷を軽減する取組（食品ロス対策等）

- ✓ 世界的に、飢餓の増加や気候変動の影響等に伴う食料供給の不安定化が懸念される一方で、大量に発生している食品ロス（食べられるにもかかわらず捨てられている食べ物）の削減を推進していく。
- ✓ ごみとして廃棄されるものについては、処理段階での更なる環境負荷の低減やリサイクルを推進していく。

- 4 使い捨て型ライフスタイルの見直し（レジ袋対策等）

- ✓ 多くの資源を消費し、また、東京の経済活動は他地域から供給される資源等に支えられていることを踏まえ、「使い捨て型ライフスタイルの見直し」対策を推進する。

- 5 今後、課題認識・問題認識の共有化を図っていく必要がある事項

- ✓ 超高齢化・人口減社会を見据えた廃掃法等に関する課題や望ましい将来像など、今後の資源循環行政の方向性に関する課題等を洗い出し、課題認識・問題認識の共有化を図っていく必要がある事項として整理する。

■ 区部における埋立処分量の更なる削減

次の事項について、23 区、23 区清掃一組及び東京都が連携して、取組の具体化に向けた検討を行う。

- 1) 収集段階でのごみ減量・資源化に関するもの
- 2) 中間処理段階における埋立処分量削減に関するもの
- 3) 最終処分場の大幅な延命化のための仕組みの検討

これまでの検討状況と今後の展開の方向性

- 都内区市町村及び東京都等で相互に提案を出し合いながら、検討事項毎の取組内容案と今後の展開の方向性を検討
 - ✓ 合意が得られた事項については、区市町村と都による共同したキャンペーン等の取組を開始
 - ✓ 更なる検討が必要な事項については、来年度も引き続き検討会で検討（平成 29 年度以降の検討会の運営については、平成 28 年度末時点での検討状況を踏まえて別途整理）

- 1 東京 2020 大会を見据えた、
(1) リユースカップなどイベントでの持続可能な資源利用のための仕組みづくり

<これまでの検討状況>

- ・ イベントでのリユースカップ等の促進を図るためのガイドラインづくりに向けた検討や先進事例の勉強
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 検討ワーキンググループの立上げ（ガイドラインの検討・作成等）

- (2) 街の美化対策及び公共空間におけるごみ箱の統一ラベルや分別ルールづくり

<これまでの検討状況>

- ・ 「街の美化」対策に取り組む意義の確認や公衆用ごみ容器の状況に関する情報共有
- ・ 環境省の統一分別ラベル導入検討事業へ検討会委員として参画
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 「街の美化」対策の推進と環境省の統一分別ラベル導入検討事業への参画継続

- 2 資源を無駄にしない（資源を大切に利用していく）取組

- (1) 事業系廃棄物のリサイクル（3R）ルールづくり

<これまでの検討状況>

- ・ 事業系廃棄物のなかで「更なるリサイクルが可能と考えられる品目」と今後の取組の方向性等の検討
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 関係者間での認識共有の促進（関係事業者団体との意見交換等）
 - ・ 検討ワーキンググループの立上げ（東京にふさわしい事業系廃棄物の 3R に関するルールづくり）

- (2) 更なるリサイクルが可能な資源を廃棄物にしない取組

<これまでの検討状況>

- ・ 「更なるリサイクルが可能な資源品目」と取組案や課題等についての認識共有（例）雑紙・古布・古着等
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 先行事例の共有や共同広報の推進等（取組案の更なる検討を含む。）

- 3 食べ物を無駄にしない・処理時の環境負荷を軽減する取組（食品ロス対策等）

<これまでの検討状況>

- ・ 「食べられるにもかかわらず捨てられる食べ物」の発生を減らすために必要な取組案の検討等（例）買い溜めしすぎない・買い物前の在庫確認、冷蔵庫に余っている食材を利用した調理の推進 等
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 食品ロス対策に関する共同キャンペーンの実施等（取組案の更なる検討を含む。）

- 4 使い捨て型ライフスタイルの見直し（レジ袋対策等）

<これまでの検討状況>

- ・ 都内自治体等による連携した取組の重要性に関する認識共有とレジ袋削減対策の課題等の検討（例）都内のすべての自治体が連携して取り組んでいくことの重要性 等
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 使い捨て型ライフスタイルの見直しに関する共同した共同広報の実施等
 - ・ 都内全体で使い捨て型ライフスタイル見直しに取り組んでいくためのネットワーク構築と取組の推進

- 5 今後、課題認識・問題認識の共有化を図っていく必要がある事項

<これまでの検討状況>

- ・ 超高齢化・人口減社会の到来を見据え、今後更なる検討が必要と考えられる取組案を検討（例）不用品回収・遺品整理対策、いわゆるごみ屋敷対策（福祉部門との連携も含む。） 等
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 検討ワーキンググループの立上げ（グッドプラクティスの共有や望ましい取組の方向性の検討等）

■ 区部における埋立処分量の更なる削減

<これまでの検討状況>

- ・ 埋立処分場の現状・課題への認識共有と埋立処分量削減にむけて必要な取組の検討（収集・中間処理段階）
- <今後の展開の方向性（来年度以降の取組の方向性）>
 - ・ 区民への共同広報、都の埋立方針の明確化や区の取組の更なる推進、大幅な延命化のための仕組みの検討